



都市部における多世代交流型 デイプログラムの9か月の評価

-高齢者の心の健康と小学生の高齢者観の変化-

○亀井智子¹⁾、梶井文子¹⁾、糸井和佳¹⁾、川上千春²⁾、

¹⁾聖路加看護大学老年看護学、²⁾前・同COE研究員



研究の背景

本研究では、Community Based Participatory Researchにもとづき、都市部に位置する本学近隣地域の小中学生と高齢者を対象とした多世代交流型デイプログラムを創設し、参加者への効果を継続的に評価した。

本プログラムの特徴は、老年看護学研究室が主催するアフタースクールタイプのデイプログラムで、大学において週1回、午後3時間にわたり実施しているもので、世代間交流による高齢者のヘルスプロモーション、知恵と文化の伝承、両世代にとっての和む場と時間の共有をねらいとしている。

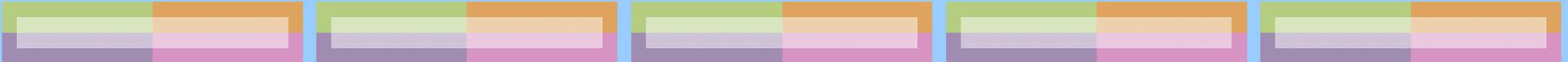




研究目的

本研究の目的は、プログラム創設初期から9か月間にわたり、継続的に参加した高齢者の心の健康状態の変化、および小学生の高齢者観の変化について分析し、本プログラムへの継続参加効果を検討することである。





研究方法

1. 研究対象

本プログラムに登録している高齢者13名、および小学生7名(2008年5月現在)のうち、初回から9か月目まで継続的に参加している者(高齢者8名、小学生4名)を分析対象とした。

2. 研究方法

高齢者: 3か月毎に質問紙調査、および面接聞き取り調査を行った。

小学生: SD法による高齢者観(6項目)の質問紙調査、高齢者と一緒に活動して感じたことなどは、自記式調査を行った。

3. 調査内容

高齢者: 生活の質(WHO-QOL26)、抑うつ(GDS-15)、参加満足度(VAS)、転倒リスク(FRA)、ADL(Lowton, Barthel Index)、認知機能(NM-scale)、他

小中学生: SD法による高齢者観、高齢者に関する思い、参加満足度

尚、本研究を行うにあたっては、研究目的を説明の上、同意を得た。また、本学研究倫理審査委員会の承認を得た。



結果 表1 利用(登録)者の特性

	小中学生	高齢者	地域ボランティア
利用者数	8名	13名	9名
性別	男性1名、女性6名	男性1名、女性12名	女性10名
平均年齢	7~14歳(range)	74.2±7.1歳	69.2±8.4歳
参加動機	・いろいろなことをやってみたい	・友だち作り ・和みたい ・世代間交流に惹かれて ・ケアマネジャーの紹介 ・自宅から近い	・自分の時間ができたため ・他でもボランティアをしているため経験が活かせる ・世代間交流に惹かれて
感想	・和みの会に来るのが楽しみ ・お年よりの人たちが親切にしてくれて嬉しい ・ゲーム・フープ・マッサージが楽しかった	・1週間が待ち遠しい ・子どもに会えて楽しい ・かるた作りなどプログラムが良い	・金曜日は計画的に過ごす ・健康に留意する ようになっ
転倒リスク者数		9名(69.1%)	
抑うつ傾向者数		4名(30.8%)	
認知機能リスク者数		2名(15.4%)	
排泄要介護者数		2名(15.4%)	
参加満足度(10段階VAS評価)		平均9.4(±1.1)ポイント	平均8.3±1.1ポイント

結果 表2 分析対象(継続参加)者の特性

	小学生	高齢者
利用者数	4名	8名
性別	男子1名、女子3名	女性8名
平均年齢	7~10歳(range)	74.4±6.4歳
転倒リスク者数	-	6名(75.0%)
抑うつ傾向者数	-	2名(25.0%)
認知機能リスク者数	-	-
排泄要介護者数	-	-
和みの会以外の習い事等	ドッチボール ピアノ ヴァイオリン	体操自主グループ フラダンス 折り紙 和紙細工

Results

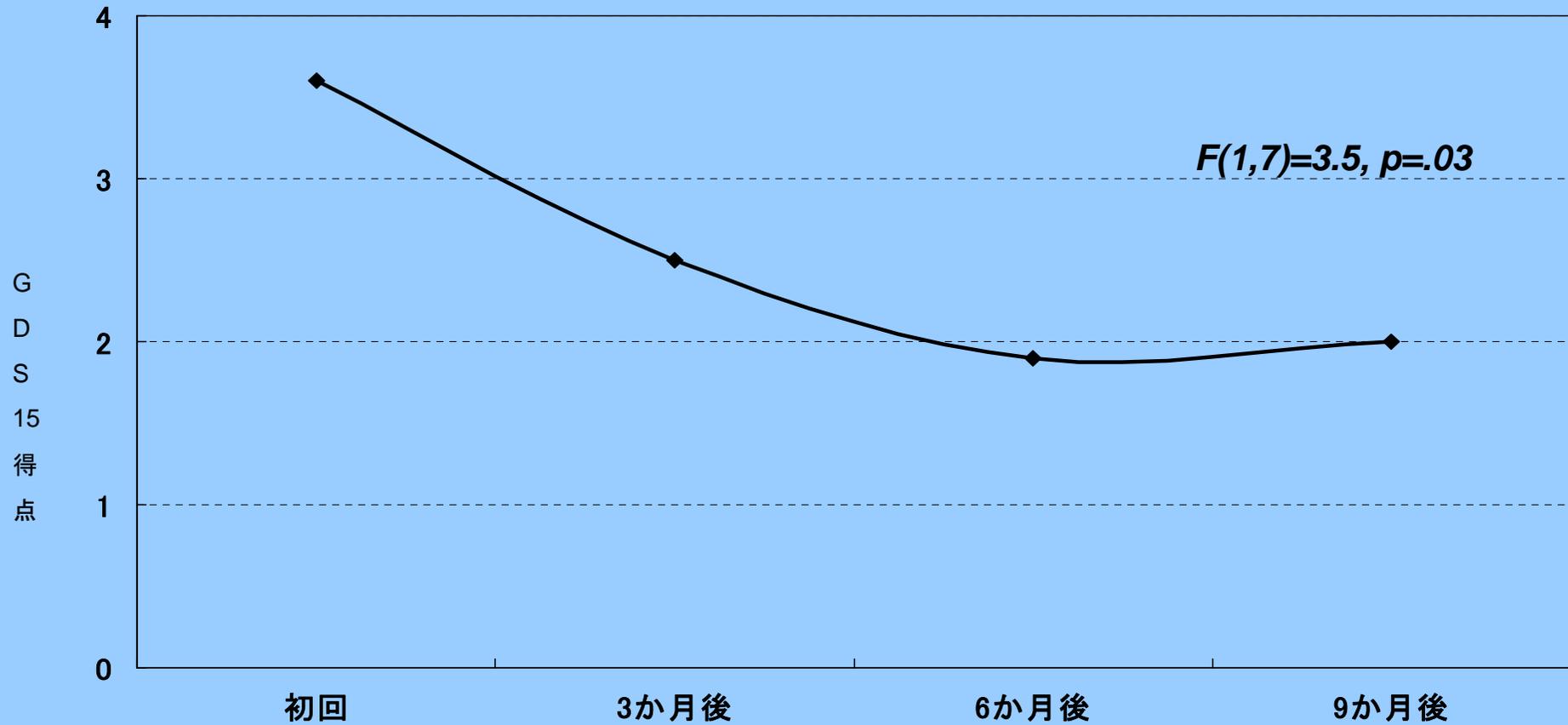


Fig. 1 Changes of geriatric depression scale score (GDS)-15 measures for the intergenerational day program (IDP) participant ($n=8$)

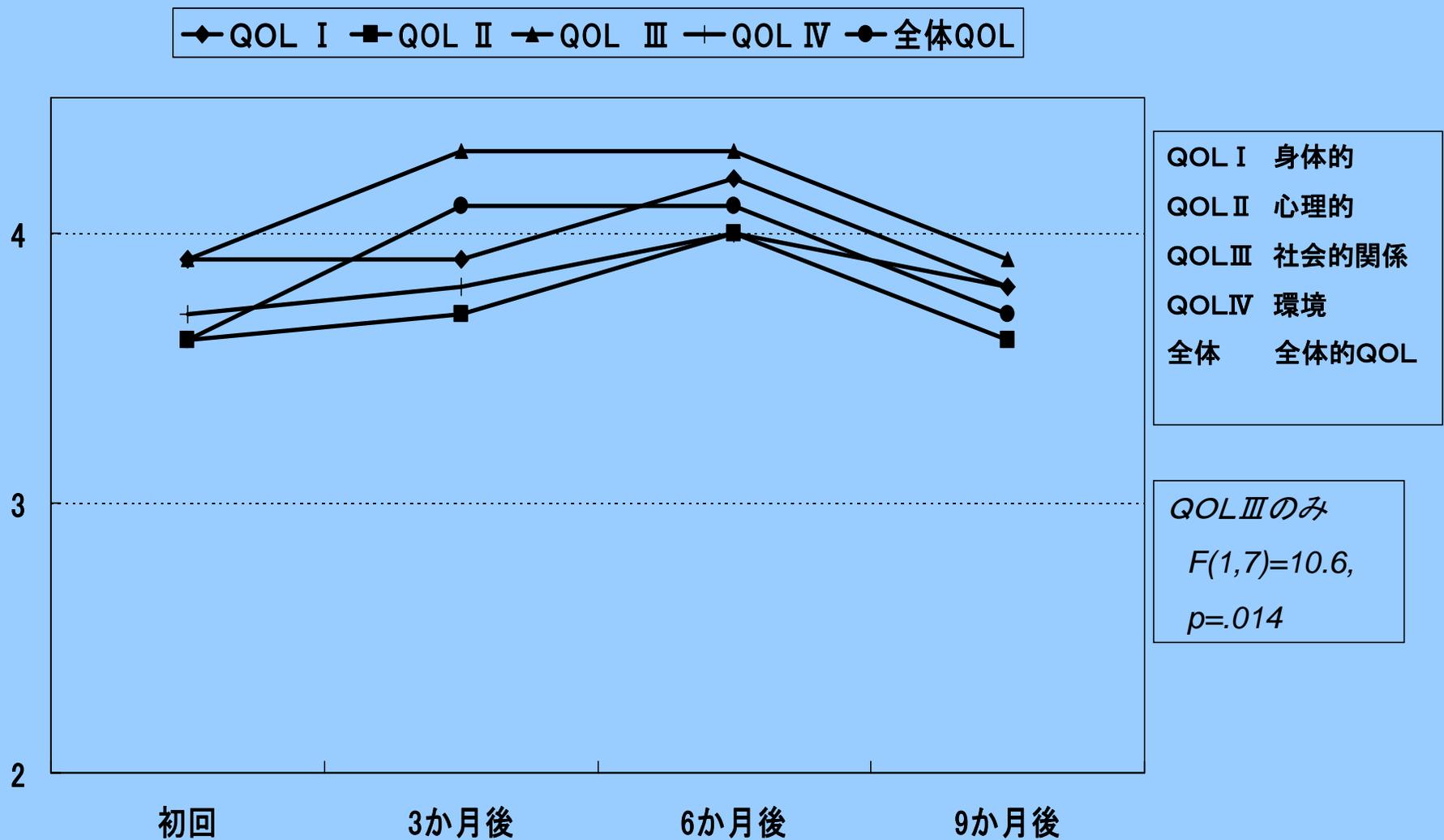


Fig. 2 Changes of quality of life (QOL)¹ measures for the intergenerational day program (IDP) participant (n= 8)

¹ WHO QOL26

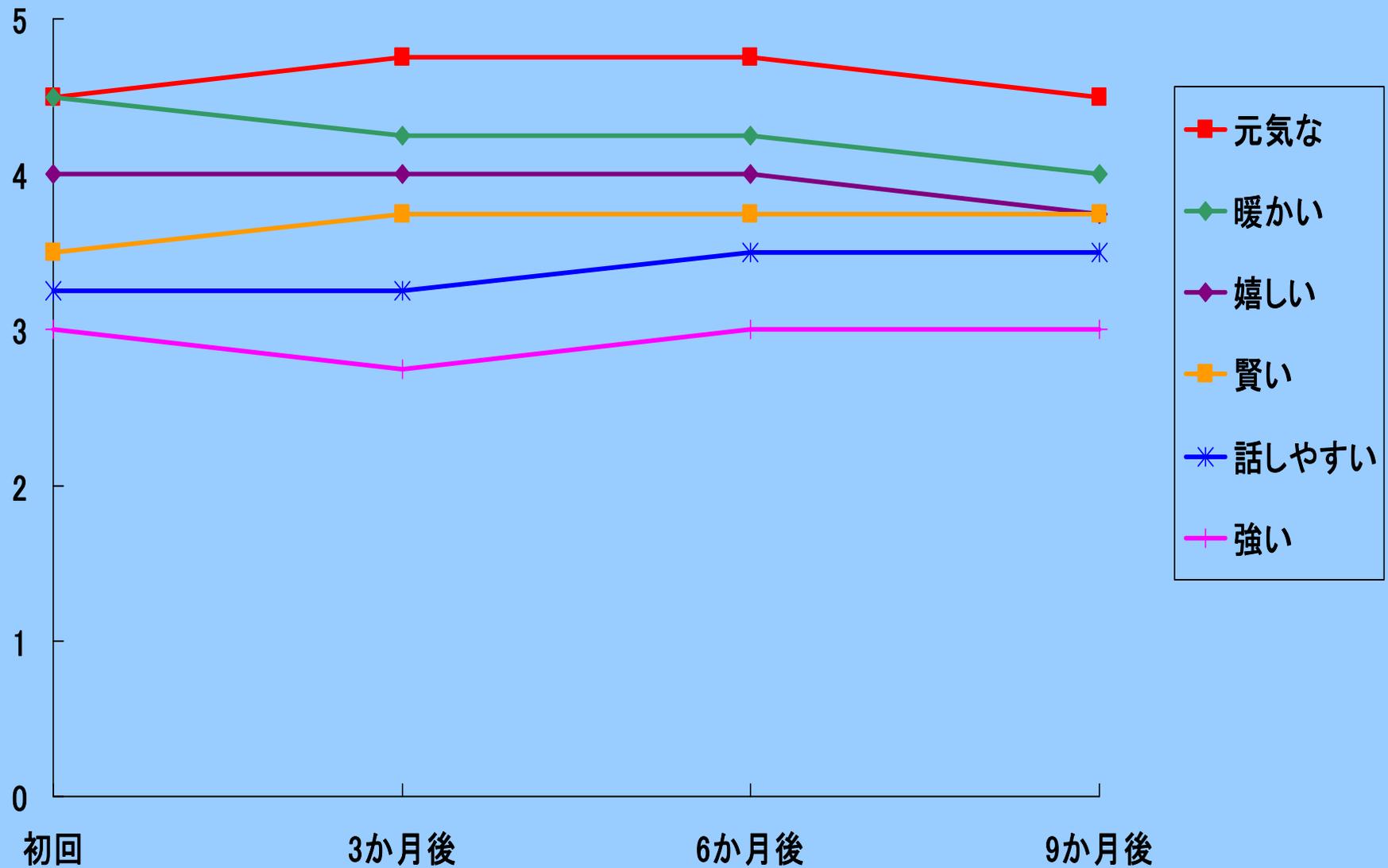


図3 子どもの高齢者観の変化(SD法による得点平均)

結果 表3 多世代交流型デイプログラムから得たもの
;子どもによる回答

- お年寄りが優しくて話しやすい
- お年寄りが親切にしてくれて、嬉しい
- お年寄りを大切にしたいと思った
- 思ったよりお年よりは話しができる
- お年よりはよく知っていて賢いのでいろいろ教えてもらえる
- 中央区のことをよく知っている
- お裁縫を学んだ
- 仲良くなった

考 察

- 本プログラムに継続的に参加した高齢者のQOLは、社会関係性において主効果が認められ、初回参加時と比較して、3か月後、6か月後の改善が認められた。
- プログラム継続参加高齢者の抑うつ症状は、初回に比較し、3か月後、6か月、9か月後は有意に低下していた。
- 小中学生の高齢者観のSDポイントは、初回参加時から高く、症例数も少なかったため、明確な変化は確認できなかった。自記式回答から、プログラムを通して、高齢者への理解を深めていたことが示された。
- 以上から、本プログラムは世代間の交流により、高齢者にとっては生活の質の向上と抑うつ症状の減少による心の健康に有効で、子どもにとっては高齢者理解や知恵の伝承の場となっていることが確認できた。創設当初の目的は達成されていると考えられたが、今後も世代間交流の特色を生かした、効果の検討を行う必要がある。

PROGRAM ACTION- LOGIC MODEL

